

比治山発! 世代を超えて体感する『クリエイティブ空間』

レポーター ひろ記者 加治実穂、高村秀樹、南 薫史

比治山を、子どもたちの思い出に残る『ワクワク空間』に。

広島市現代美術館やまんが図書館があるイメージの比治山公園。ところがこの日(10月8日)は、まんが図書館の正面に、新鋭クリエイター達の体験型のブースが縁日の露店ように並ぶ『比治山公園クリエイティブマーケット』が出現。出品された作品はお洒落で個性的で、見るのも触れるのも楽しいモノばかり。訪れた人たちは作家さんとの会話を楽しみながら、作品を一つ一つ手に取っていました。



▲代表の尾崎さん。思いを熱く語ってくれました

飲食コーナーの移動販売車からは、おいしいそうな匂いが。広場奥のメインステージでは忍者ショーや弾き語りライブ、ロカビリーのダンスグループのパフォーマンスが。ほかにも手裏剣体験や、草木染め、アウトドア料理などのさまざまな体験コーナーがあり、子どもや親子連れの参加者でとてもにぎわっていました。

若いクリエイターの感性&チャレンジ精神を発信する『遊園地』

イベントを主催したモチプロ・サポーターズ代表の尾崎さんは、比治山公園クリエイティブマーケットを「広島の若いクリエイターを応援し、彼らの感性とチャレンジ精神を発信できる場にしたい」と話されます。

尾崎さんがイベントで特にこだわっていること。それは、このクリエイ

ティブマーケットに盛り込まれているさまざまな仕掛け。たとえば会場に張られたカラフルなフラッグやポップでかわいい移動販売車。忍者ショーの演者の躍動感のある動き、ボン菓子やの弾ける音や、唐揚げの匂いが、訪れた人たちの五感を刺激し、まるで小さな遊園地にいるような気分させるのです。

『大人が本気で楽しんでいる姿は、子どもたちの刺激につながる』

「この比治山公園という場所で、楽しくてワクワクした経験を子どもたちにずっと覚えていてほしい。僕らが次世代の子どもたちに残せるものは何か。それは大人たちが本気になって楽しんでいる姿を見せてあげることだと思います。それが子どもたちの刺激となり、さらに自ら成長していくための意欲につながっていくんじゃないかな」と話してくれました。

今後は比治山クリエイティブマーケットをきっかけに発足した『ひじやまがすぎ企画実行委員会』の活動を広げていきたいとのことでした。比治山の魅力を活用・発信していきたいと思う仲間も募集中です。



▲若手クリエイターの作品を楽しむ親子連れ

連絡はFacebookページ (<https://www.facebook.com/HijiyamaLike/>) まで。

「ひろ記者」とは、市民自らが地域のまちづくり活動やイベントなどを取材し発信していく、広島の市民レポーターです。



▶ <http://www.city.hiroshima.lg.jp/hirokisha/>

らっしゅくコラム

Rashikku column

自然を守る市民科学の力

唐突な話になるが、鳥取砂丘と言われて、どのようなイメージを持つだろうか。観光用にラクダがいるように、何も生えていない砂漠のような景観をイメージする人が多いのではないだろうか。確かに、鳥取砂丘は潮風が吹き荒れ、砂が頻繁に移動するため、植物が生育しにくい環境ではある。しかし、日本は降水量が豊富にあるため、砂丘といえども、乾燥や塩分に強い植物は生えることができる。鳥取砂丘でも、これらの植物が生えてくるため、1991年からは草原化の対策として、観光利用の多い場所ではボランティアによる除草が行われ、現在の景観を維持している。

砂丘に生えてくる植物に対して、観光客の方々はどうのようなイメージを持っているのだろうか。鳥取砂丘の植物の増減についてアンケートを行った事例によると、訪問回数が多い人ほど「昔よりも植物が増えている」と回答する割合が高かったそうだ。実際には1991年から現在までに、除草によって砂丘の植物は減少しているはずなのだが……。このようなイメージと現実のギャップはなぜ生まれるのだろうか。人は「昔はよかった」という感情を抱きやすい生き物なのかもしれない。とにかく、人の「記憶」に頼って環境を評価することには限界があるようだ。

山や川、海などの自然環境は、人間活動の影響を受けやすいことから、「昔はよかった」という事例はたしかに多い。昔の田んぼではメダカやゲンゴロウが普通に泳いでいたが、現在では国の絶滅危惧種に指定され、近い将来の絶滅が懸念されている。一方、各地域のボランティア団体によって、干潟や里山などをフィールドにさまざまな保全活動が行われており、生き物にとって「昔よりもよくなった」という事例もある。このような変化を個人の「記

憶」に頼るのではなく、「記録」に残しておくことが大切である。

近年、自然環境の保全の現場において、「市民科学」を活用した取り組みが広がっている。「市民科学」とは、非専門家である一般の方による科学的な調査、研究活動と定義されている。近畿の駅ツバメ調査の事例では、100人を超える一般の方が参加し、近畿全域の駅のツバメの営巣調査に成功している。このような大規模な取り組みは難しいにしても、同じ場所から定期的に写真を撮影したり、発見した生物の名前を調べたり、絶滅危惧種の個体数を定期的に数えたりするなど、個人や各団体レベルでも「記録」を始めることはできる。広島県としても、絶滅危惧種や外来生物の目撃情報を投稿できるシステム(県民いきもの調査)が整っており、誰でも気軽に調査に参加できる。

瀬戸内の気候風土が育んだ多様な自然に溢れる広島。「昔はよかった」と今の時代を嘆くよりも、「昔よりもよくなった」という活動事例が少しでも増えていくことに期待したい。



Profile

広島工業大学 環境学部
岡 浩平 准教授

■専門領域: 保全生態学、植生学、景観生態学
卒業研究から現在に至るまで、砂浜や砂丘に生育する海浜植物の研究に取り組んでいる。東日本大震災以降、仙台湾沿岸の自然環境のモニタリングを行っている。広島工業大学への着任をきっかけに瀬戸内海の干潟の動植物の研究を開始。

ようこそ! 公民館へ

～中区内公民館～

地域のみなさんの学習活動を応援する最も身近な施設「公民館」でまちづくりに関する活動をしているグループをご紹介します。今号は、中区内公民館で活動しているみなさんです。

1 広島切り絵友の会

中央公民館

広島切り絵友の会は、切り絵を作る楽しみを多くの人に広めようと、12年前切り絵の本場中国からの帰国者岩井梅子先生を講師として招聘し、試行錯誤を繰り返しながら今日に至っています。

毎月第3土曜日の午後、4時間活動しています。40歳から90歳近い人まで、幅広い年齢層ですが、切り絵技術の向上だけでなく、相互交流をしながら、月1回の出合いを大切に活動しています。

中央公民館合同フェスティバル、基町高校との地域芸術交流、通信病院でのロビー展など、毎年数回成果を発表する機会があります。

切り絵の基本は黒い紙を切り抜き、白い紙に貼り付けるという手法で制作しますが、最近はカラーの作品が増えています。技術的にはまだまだ未熟ですが、広島の地で切り絵の灯を消さないよう、会員一同頑張っています。

一度切り絵を体験してみませんか。切り絵を通して、私達と楽しく交流しましょう。



2 平和大通り樹の会

竹屋公民館

平和大通りの樹木を愛し、大切にすることを目的として、竹屋公民館や現地(平和大通りなど)で毎

月1回活動しています。平和大通りには、平和を願い各地から送られたたくさんの樹木があり、毎年春と秋には「平和大通り樹木探索の集い」を竹屋公民館と共催で開催もしています。

まるで街なかの植物園ともいえる平和大通りの四季折々の自然の変化と一緒に観察してみませんか。



3 よしじま歴史散歩くらぶ

吉島公民館

当会は、(1)四季折々の風情を楽しみウォーキングを兼ね、散歩しながら歴史を知る、(2)講師指導の座学や散策、他公民館・他団体の散策会などにも参加する、という2つの活動を通して、自己の向上と地域づくりの一助に努める等の目的に基づいて吉島公民館でのグループ活動をしています。

9月・10月の定例会活動は、第27回歴史散歩9月6日(水)「狩留家・上深川町並み散歩」、第28回歴史散歩10月4日「安芸国府・府中町並み散歩」。都度計画して行っている特別歴史散歩では、9月22日(金)「ビザorバスタランチ(キャナリィ・ロウ)・中工場施設見学(中区)」、9月24日(日)「祝島・上関・室津日帰りツアー(瀬戸内海汽船・人数制限有)」を実施しました。

10月4日の散歩ルート(説明員:役員永井さん・参加者23人・晴天)は『広島駅南口バス停(12時54分発)・・・(バス移動)・・・本町四丁目バス停→お大師さま→下岡田遺跡→石井城址→鶴上寺→下久瀬の石燈籠→今出川清水→田所明神→出合清水→ムクノ木跡→総社跡→三翁社→龍仙寺と勘孝徳碑→多家神社(記念写真・15時50分ごろ解散)→埃宮バス停(15時58分発)・・・(バス移動)・・・JR広島駅南口(懇親会11人)』でした。青空の心地よい秋風の中、今回は改めて国衛としての「府中の歴史」を学び、散歩後、懇親会(飲食・有志)で和気あいあいに盛り上がりました。

今後の定例会活動としては、第30回歴史散歩12月6日(水)「新高山城跡散歩(本郷)」、第31回歴史散歩1月17日(水)「初詣・二葉の里散歩(新年会)」、第32回歴史散歩2月7日(水)「元宇品国立公園・自然巡り散歩」、第33回歴史散歩3月7日(水)「可部

線帆待川駅・中島駅周辺散歩」(いずれも雨天中止)を予定しています。体験参加(会費無料・移動交通費個人負担)に是非一度、お気軽にご参加ください。お待ちしております。尚、当会は「高齢者いきいき活動ポイント事業活動団体」に登録済みです。

【HP】<http://www.hiroshima-joho.com/yoshijimasanpo.html>



4 まぼろしの江波焼探偵団

舟入公民館

「まぼろしの江波焼探偵団」は8年前に舟入公民館との共催事業として始まり、1年前に独立して江波焼の調査研究を継続して活動しています。定例会は奇数月の第3日曜日の午後1時から3時半までです。

江波焼は江戸時代後期の190年前に江波地区で焼かれていましたが、今では「まぼろしの江波焼」と呼ばれて存在すら危ぶまれています。



3年前に江波地区に開通した広島南道路3号線建設で約350戸の建物が解体され、その跡地から、磁器や陶器、窯道具の破片が大量に見られています。

最近の「まぼろしの江波焼探偵団」の活動は古文書に記載されている白土を送り出した安芸高田市甲田を訪ね白土を採取し江波焼の試作に挑戦しています。

また、「まぼろしの江波焼探偵団」は江波町内で進めている江波焼記念碑建設の支援を行っています。



グループへのお問合せについては、各公民館へお願いします。

① 中央公民館	☎082-221-5943
② 竹屋公民館	☎082-241-8003
③ 吉島公民館	☎082-246-4121
④ 舟入公民館	☎082-295-5003

さまざまな分野の達人たちが登録しているまちづくりボランティア人材バンク。
地域活動やまちづくりのお手伝いに、
今日も、あなたのまちを達人たちがおうかがいしています。

にしだ もとかず
西田 元一さん

ギターが奏でる昭和歌謡・演歌の名曲の数々 懐かしい音色に青春の記憶が甦る

ギター一本で、昭和歌謡や演歌の名曲の数々を弾き、聴く人々を魅了。演歌ギターの演奏活動と指導をしているのが西田元一さんです。

昭和35年頃、当時デザイナーとして働いていた東京で、同僚からの誘いで趣味として始めたギター。一時期、プロ楽団「東京お茶の水ギターアンサンブル」に在籍するまで上達しましたが、昭和45年に広島に戻ってからはギターから遠ざかったそうです。

「広島に戻って仕事が忙しくなり、ギターを弾く時間がありませんでした。しかし平成8年、東京在住時代の知人で、演歌ギターの重鎮と呼ばれていた木村好夫きむらよしおさんが亡くなったんです。人づてに彼からの形見が送られてきて、同封されていた手紙に、僕に代わって演歌ギターの魅力を伝えて欲しい、といった内容が記されていました。その言葉に心を動かされ、再びギターを弾く大きなきっかけとなりました」と西田さん。



▲愛用のギターの数々



▲昭和35年頃使用していた譜面

数年間、練習を積み重ねた西田さんは、およそ30年のブランクを乗り越え、自分の力を試す意味も込めて、平成13年に行われたフラワーフェスティバルに参加。戦前、戦後の懐か

しの昭和歌謡と演歌の名曲を演奏。多くの人に聴いてもらい大きな反響を得ることができたそうです。

翌平成14年に人材バンクに登録し、その後もほぼ毎年のようにフラワーフェスティバルに参加すると同時に、聴いていた人からの勧めで、高齢者施設でのボランティア活動もスタート。およそ3,000曲余りのレパートリーの中から、場所や聴く人たちによってプログラムを構成し演奏しています。その他にも、仲間たちと毎年、東区民文化センターで演奏会を開催し、また節目の年には木村好夫さんをしのぶイベントも行い、哀愁漂う音で奏でる、演歌ギターの真髄を楽しんでもらっています。プロを目指す方には、主宰している「広島演歌ギター倶楽部」で、その熟練の技を伝授しています。

「広島には、演歌ギターを弾く人がほとんどいませんが、高齢者施設や公民館での要望は増えてきています。自分が演奏できる限りは、演奏活動を続け、懐かしい音色で青春を思い出してほしいと思っています。また、演歌ギターの道を究めてみたいと考えている人には、自分の持っている技を伝えて、この文化を絶やさないようにしていきたいですね」と熱く語ってくれました。



▲フラワーフェスティバルで演奏する様子



西田元一さん

ひろしま紙芝居村 村長 阿部 頼繁さん

<https://ja-jp.facebook.com/hiroshimakamishibai/>

子どもから大人まで世代を超えて楽しめる紙芝居を通して、 人と人、そして地域とのコミュニケーションを図る

古くから日本独自の大衆文化として、子どもから大人まで親しまれてきた紙芝居を使って、人と人との交流、地域との交流を図っているのが「ひろしま紙芝居村」です。

村長の阿部頼繁さんは、平成19年に演劇の一環として紙芝居の上演をスタート。誰もが知る昔話を中心とした作品を、地域の公民館などで上演していたそうです。その後、平成23年に発生した東日本大震災の際、阿部さんは福島県の仮設住宅などにボランティア活動として紙芝居の上演に出向き、そこで紙芝居を上演することが地域との交流ツールのひとつとして活用できることを実感したといいます。

「一見、単純そうに見える紙芝居ですが、見る人や場所、環境が違えば、難しかったり、簡単だったり、毎回違うんですね。作品も昔話だけでなく、地域にちなんだ作品を上演することで、興味をぐっと引きつけられます。紙芝居といえども印象に残る作品になる。そこで人々の新たな交流が生まれることにボランティア活動をする中で気がついたんです」と阿部さんは語ります。

阿部さんが紙芝居のノウハウを後進に伝えたいと思うようになった頃、平成24年に二葉公民館から依頼を受けて「紙芝居



▲第2回「ひろしま紙芝居大会」カープ昔話上演の様子（平成29年9月）

講座」を開催。講座修了後、受講生に紙芝居を上演する場をつくる目的で「ひろしま紙芝居村」を結成し、現在、約20人の村民が公民館や福祉施設などで活動を行っています。「紙芝居講座」はその後テーマを変えて継続しており、平成29年度は、受講生が紙芝居のストーリーを身近な話題で考え、絵を描き上演する4枚紙芝居の講座が平成30年1月に予定されています。

レパートリーは広く、誰もが知っている昔話はもちろん、地域からの依頼でその場所に伝わる昔話を新たに紙芝居にすることや、大型紙芝居と呼ばれる通常より大きなサイズの紙芝居、広島東洋カープの昔話『広島カープ昔話〜カープを救った男石本秀一物語』などもあります。

「紙芝居の最大の魅力は、ライブ感ですね。目の前で、見る人が感動して目を輝かせながら見てくれる。その姿を見て、演じる側もより力を入れて上演するようになる。その連鎖による輪が広がっていく様子は感動です。そして紙芝居を通じて、人と人とのコミュニケーション、地域のコミュニケーションが図れることも魅力ですね」。

今後は、まだまだ紙芝居の魅力を知らない人たちに知ってもらうために、村民とともに、さまざまな場所での上演を続けていきたいと考えているそうです。



村長の阿部頼繁さん



▲練習の様子



▲「砂持加勢祭り」での野外上演の様子（平成29年10月）

こんな時・こんな場面で、 人材バンク登録者が活躍！ まずはお気軽にご相談ください。

ケース1：町内会行事のマンネリ化を打破したい

毎年恒例の新年親睦会。町内の子どもから高齢者まで誰でも参加できる行事だが、ここ数年は会食と食後のカラオケ、最後にビンゴゲームが定番となり、決まった顔ぶれしか集まらなくなった。何か新しい試みで、マンネリ化を打破したいと考えていたときに、人材バンクを知り、ボランティア登録者の紹介を依頼した。

結果は、例年の倍以上の参加があり、特に子ども達が最後まで楽しめる行事にすることができた。参加した町内の方々から「今年は楽しかった」「楽しい企画をありがとう」と役員へお礼の言葉が多数寄せられた。人材バンク登録者を紹介してもらって本当によかった。

ケース2：役員になって初めてのサロン事業、何をしよう…

地域のひとり暮らし高齢者が集い交流するサロン事業。毎月1回開催している事業の運営に携わることになった。2時間のサロンのうち、1時間は講演会や体験会を開き、残りの1時間は参加者同士が交流する茶話会と決まっているのだが、役員になって初めてのサロンで具体的に何をしようか悩んでいたとき、インター

ネットで人材バンクを知り、ボランティア登録者の紹介を依頼した。

ボランティア登録者をゲストとしてお招きし、楽器の生演奏によるミニコンサートを企画することができた。こちらのリクエストにも応えてもらえ、懐かしい歌謡曲の演奏に合わせて参加者全員で歌うこともできた。その後の茶話会では、ゲストも交えて懐かしい思い出話に花が咲いた。人材バンクには、まだまだ多くの登録者がおられるので、また時々ゲストとしてお招きできたらなと思っている。

※まちづくりボランティア人材バンクは、政治・宗教・営利目的での登録並びに紹介申込は受け付けておりません。

まちづくりボランティア 人材バンク発表会

ボランティア登録者が自らの達人ぶりを披露します。気軽にお立ち寄りください。

- 日時／毎月第4土曜日 午後2時～3時半
- 場所／南棟1階ロビー
- 参加費・申込／原則不要

開催日	内 容	出演者名
12月23日(土)	自然の蔓を使ったお正月リースづくり [定員40人(要事前申込)、材料費1,000円]	舞 ひかるさん
1月27日(土)	新春! おめでたいパフォーマンス大集合	人材バンク登録者が多数出演予定 お楽しみに!
2月24日(土)	ふしぎ探検! 暮らしのなかの右・左	小沢 康甫さん
3月24日(土)	声とコミュニケーション ～今日も歌えば元気になる～	林田 さゆりさん

※内容・出演者は急遽変更になる場合があります。

ボランティア紹介・登録などのお申込・お問い合わせは…

合人社ウェンディひと・まちプラザ ☎(082)545-3911 ☎(082)545-3838
(まちづくり市民交流プラザ)